授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	こどもと表現Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	渡邉　恵美	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師				
授業のねらい （到達目標）	美術・造形の基礎、表現技法のあり方、美術の専門知識などを学ぶ。幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れて、子どもが楽しく造形活動ができる教材のあり方、支援の仕方、指導のあり方についても考えに入れながら、理論と実技の両面から実践的に学ぶ。				
授業概要	子どもの表現や発達をイメージしながら、美術・造形の基礎・基本が身につき、実際に役立つような講義と教材研究を行う。				
テキスト	なし				

授業計画		
	第1回	「図画工作」の教材研究
	第2回	身近な素材での教材製作
	第3回	身近な素材での教材製作
	第4回	発達段階と表現の変遷について
	第5回	発達段階と表現の変遷について
	第6回	複数で表現するおもしろさ
	第7回	色画用紙を使った表現指導
	第8回	色画用紙を使った表現指導
	第9回	紙パックっを使っての表現指導
	第10回	紙パックっを使っての表現指導
	第11回	紙パックっを使っての表現指導
	第12回	名画・名作の鑑賞等
	第13回	名画・名作の鑑賞等
	第14回	子どもの造形表現の鑑賞等
	第15回	まとめ

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	社会福祉論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	中村　真治	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	介護支援専門員・地域包括支援センター職員・他大学での勤務				
授業のねらい （到達目標）	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。				
授業概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史的変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。				
テキスト	「社会福祉論」 姫路大学				

授業計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	社会福祉の理念
	第3回	社会福祉の歴史的変遷①
	第4回	社会福祉の歴史的変遷②
	第5回	社会福祉の制度と法体系①
	第6回	社会福祉の制度と法体系②
	第7回	社会保障と関連制度
	第8回	社会福祉行財政
	第9回	社会福祉施設
	第10回	社会福祉の専門職
	第11回	少子・高齢化社会
	第12回	地域福祉
	第13回	ソーシャルワーク①
	第14回	ソーシャルワーク②
	第15回	まとめ

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	乳児保育Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	原田　明子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	私立乳児園、保育園での勤務経験から、現場で求められる乳児保育担当者の資質・能力が培われるよう実践的指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。				
授業概要	1. グループワークを通し、3歳未満児の発達やそれに沿った保育者の関わりを知る 2、DVDの事例から、子どもの言動や保育者の関わりの意図を個人、グループ、クラス全体で考察する。 3、養護が教育の一部であること、すべての経験が学びとなっていることを理論的に考察する。				
テキスト	「乳幼児保育」、保育所保育指針				

授業計画		
	第1回	乳児保育の基本　乳児の特徴
	第2回	養護と教育の一体化
	第3回	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と乳児保育
	第4回	乳児の発達①　グループワーク
	第5回	乳児の発達②　グループワーク
	第6回	乳児の発達③　グループワーク
	第7回	乳児の発達④　グループワーク発表
	第8回	単位認定試験
	第9回	模擬保育指導案　立案①
	第10回	模擬保育指導案　立案②
	第11回	模擬保育指導案　グループ討議
	第12回	模擬保育準備①
	第13回	模擬保育準備②
	第14回	模擬保育
	第15回	模擬保育

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	社会的養護Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	渡邉　みゆき	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	「社会的養護Ⅰ」で学んだ社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 社会的養護における虐待防止と家庭支援について理解する。				
授業概要	スクーリングによる体験的な授業で、主としてコミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術とネットワーク運営のための技術を身につける。				
テキスト					

授業計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	社会的養護の定義と理念
	第3回	求められる資質や倫理
	第4回	社会的養護の体系、施設養護の体系
	第5回	乳児院（演習）
	第6回	母子生活支援施設（演習）
	第7回	障害児入所施設（演習）
	第8回	児童養護施設（演習）
	第9回	児童自立支援施設（演習）
	第10回	児童心理治療施設（演習）
	第11回	家庭養護・家庭的養護の体系
	第12回	里親（演習）
	第13回	地域小規模児童養護施設（演習）
	第14回	社会的養護の現状と課題
	第15回	まとめ

単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	英語コミュニケーション Ⅰ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	堀切　修宏	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校での外国語活動の教育、中学、高等専門学校でのCLILを用いた教育実践、学習塾の運営				
授業のねらい （到達目標）	幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	英文法の基礎を学習し、英文読解のルールを用いて英文を読んでいく。また保育の現場での様々な生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。				
テキスト	「英語コミュニケーション」姫路大学				

授業計画		
	第1回	英語の文法(動詞、形容詞・副詞)
	第2回	英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)
	第3回	英語の文法(進行形、完了形、受動態)
	第4回	英語の基礎構文(5文型)と英文読解のルール
	第5回	英語の基礎構文(修飾句)
	第6回	英語の基礎構文(接続詞、仮定法)
	第7回	入園準備の際に用いる英語表現
	第8回	登園・降園の際に用いる英語表現
	第9回	室内遊びの際に用いる英語表現
	第10回	外遊びの際に用いる英語表現
	第11回	健康・病気・けがの際に用いる英語表現
	第12回	運動・お散歩の際に用いる英語表現
	第13回	食事の際に用いる英語表現
	第14回	工作・お絵かきの際に用いる英語表現
	第15回	おたより・行事の際に用いる英語表現

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	特別支援演習	授業形態	講義	単位数	1単位
担当教員	渡邉　みゆき	実務経験の有無		×	
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	障害種別による支援方法、感覚統合法の視点に基づく支援方法について知識を習得し、個別のニーズに応じた支援ができる力を演習を通して身に付ける。				
授業概要	特別支援論の学びの上に、特別な教育的ニーズをもつ子どもたち事例を通して、合理的配慮の在り方を考える。				
テキスト					

授業計画		
	第1回	障害とは
	第2回	感覚統合療法とは
	第3回	肢体不自由児への支援
	第4回	聴覚障害児への支援
	第5回	視覚障害児への支援
	第6回	言語障害児への支援
	第7回	知的障害児への支援
	第8回	ASD児への支援
	第9回	ADHD・その他の発達障害児への支援
	第10回	感覚過敏の症状と改善のための活動
	第11回	重力不安の症状と改善のための活動
	第12回	低反応の症状と改善のための活動
	第13回	低緊張の症状と改善のための活動
	第14回	ボディ・イメージの問題と改善のための活動
	第15回	まとめ

単位認定・評価方法

期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席

平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度

上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	教育課程論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	斎藤　真	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立小学校教員9年の経験を有するほか，国立大学教員養成課程ならびに大学院小学校教員養成課程におけるティーチングサポートならびにティーチングアシスト経験，大学研究職助手5年。				
授業のねらい （到達目標）	学校教育目標達成のための必要不可欠な，教育課程編成の法的な根拠を考察する。また、基本方針を理解し，教育課程編成の意義や課題等を学ぶ。				
授業概要	1．教育課程の意義と必要性について　2．小学校の教育課程の違いについて　3．教育課程と年間指導計画との関連について　4．年間指導計画等の作成上の留意点について　5．小学校における評価の意義と考え方について　6．教育課程の編成と「生きる力」の育成との関連について				
テキスト	教育課程論（姫路大学）				

授業計画		
	第1回	教育課程の意義
	第2回	教育課程の変遷①
	第3回	教育課程の変遷②
	第4回	教育課程編成とその留意点
	第5回	小学校および中学校における教育課程編成とその留意点
	第6回	幼稚園における教育課程編成とその留意点
	第7回	教育課程開発（生活科誕生の背景と取り組み）
	第8回	小学校学習指導要領解説　総則編について
	第9回	教育課程実施上の配慮事項
	第10回	様々な教育課程とその背景
	第11回	様々な教育課程とその背景
	第12回	諸外国の教育課程
	第13回	諸外国の教育課程
	第14回	
	第15回	

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	教育相談	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	曽根原　和明	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任として児童の発達や生活上の課題に向き合いながら、教育相談的な対応を行ってきた。保護者や同僚と連携し、子どもの心の理解と支援に努めてきた経験を基に、学校現場における教育相談の意義や実際について具体的に伝える。				
授業のねらい （到達目標）	学校現場で生じている問題を理解し、教育相談の意義と実際、教育相談におけるカウンセリングについて学び、教育相談の知識と技能を修得する。また、その知識と技能をもとに実際の教育相談を実践できる能力を身につける。				
授業概要	学校・園の現場では、幼児・児童・生徒がさまざまな課題に直面する。それは、成長の一過程であるが、当事者にとっては大きな問題である。学校・園における教育相談の役割は、こうした幼児・児童・生徒の心を理解し、援助することの1つとして存在する。そのような状況を踏まえ、学校・園での教育相談のあり方や教育相談を実施する上での課題について学ぶことを目的とする。				
テキスト	「教育相談」日潟淳子・田仲由佳　姫路大学通信教育課程テキスト				

授業計画		
	第1回	教育相談の概要
	第2回	カウンセリングの基本と技術
	第3回	心理アセスメント技法
	第4回	不登校の理解と対応
	第5回	いじめの理解と対応
	第6回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と対応
	第7回	有効な特別支援教育とは
	第8回	子どもの精神疾患の理解：乳幼児期
	第9回	子どもの精神疾患の理解：児童期・思春期
	第10回	児童虐待への対応
	第11回	保護者の心の理解と対応
	第12回	保護者対応の基本
	第13回	校内連携
	第14回	他機関との連携
	第15回	教師のメンタルヘルス

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育内容(環境Ⅰ)	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	板垣　裕	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。				
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2・子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力を身につける。				
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。				
テキスト	新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　環境				

授業計画		
	第1回	環境とは何か？　環境の定義
	第2回	環境とは何か？　子どもを取り巻く環境の変化を知る
	第3回	領域「環境」の理解　ねらいと内容
	第4回	領域「環境」の理解　環境を通して行う保育
	第5回	環境の構成　教師の願いを込める
	第6回	環境の構成　身近な環境の構成
	第7回	環境の構成　季節や地域の行事
	第8回	環境の構成　好奇心・探究心を育てる環境
	第9回	園での実際の環境構成(映像学習)①
	第10回	園での実際の環境構成(映像学習)②
	第11回	園での実際の環境構成(映像学習)③
	第12回	保育者の存在　人的環境の重要性
	第13回	標識・文字、数量・図形との出会い
	第14回	ねらいを達成するための環境構成の工夫(校外学習計画)
	第15回	校外学習

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育内容人間関係Ⅰ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	原田　明子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	・保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域人間関係のねらいや内容の取扱いについて理解する。 ・人間関係の発達や自立心・協同性の発達を理解し、保育実践に応用できる。				
授業概要	1）事例を用い、さまざまな子どもの人と関わる力の育ちを考察する。 2）保育者としてどのように人と関わる力を育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係を築いていくか考察する。				
テキスト	領域人間関係」、保育所保育指針、幼稚園教育要領				

授業計画		
	第1回	保育の基本と人との関わり
	第2回	演習1「私は誰」「対人関係図」、ワークシート1
	第3回	乳児期における人との関わりの発達、ワークシー2
	第4回	遊びの中で育つ人との関わり、演習3、ワークシート3
	第5回	人との関わりを育てる保育の充実・保育者の役割
	第6回	人との関わりが難しい子どもへの支援
	第7回	園、家庭、地域の生活と人との関わり
	第8回	演習4，事例　グループワーク
	第9回	ワークシート4、領域人間関係をめぐる諸問題
	第10回	単位認定試験
	第11回	インドプロジェクトの事例から保育内容を考察する
	第12回	インドプロジェクトの事例から5領域の関連を考察する
	第13回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える
	第14回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える（ロールプレイ）①
	第15回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える（ロールプレイ）②

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育内容(言葉)	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	板垣　裕	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。				
授業のねらい (到達目標)	領域『言葉』の内容、その他の領域との相互性を学び、言葉の発達の大切さを理解することができる。				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどものへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深め、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さを理解すると共に、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材にについても学ぶ。				
テキスト	新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　言葉				

授業計画		
	第1回	言葉とは何か？　私たちが言葉を使って行っていること
	第2回	母語・日本語の特徴
	第3回	言葉の形態(聞く話す読む書く)
	第4回	言葉の役割①
	第5回	言葉の役割②
	第6回	言葉の発達(誕生期～乳児期)①
	第7回	言葉の発達(誕生期～乳児期)②
	第8回	言葉の発達(幼児期)
	第9回	保育者の関わり(誕生期～乳児期)
	第10回	保育者の関わり(幼児期)
	第11回	豊かに言葉を育む活動①【語用論】
	第12回	豊かに言葉を育む活動②児童文化財
	第13回	言葉の問題①　人的環境として
	第14回	言葉の問題②　障害
	第15回	視聴覚教材【ピンク帽子のドレミファソ】

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育内容(表現)	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	山田　すみ江	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育士、幼稚園教諭、母親学級講師、スポーツインストラクター経験を生かし，現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	・子どもの発達過程と運動遊びの関係を理解する。 ・運動遊びの種類及び、さまざまな局面で遊びが子どもの成長・発達(社会性・感情を含む)に与える影響を理解し、具体的な援助方法を取得する。 ・子どもが安全に楽しく運動遊びに取り組むための環境づくりについて理解する。				
授業概要	グループ毎に、発達過程に応じた運動遊びを考え発表することで、運動遊びと発達の関係の理解を深める。また、子どもたちが主体的に楽しく、安全に遊びを展開したり、深めたりする援助方法を学ぶ。				
テキスト	保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・認定こども園教育・保育要領解説				

授業計画		
	第1回	自然を取り入れた遊び(水遊び・雪遊び)や戸外や森での遊びについて(講義)
	第2回	固定遊具を使った遊び1(すべり台・ジャングルジム・上り棒等)
	第3回	固定遊具を使った遊び2(鉄棒・ブランコ等)
	第4回	ボールを使った遊び1(小さいボール・やわらかいボール・大量のボール等)
	第5回	ボールを使った遊び2(大きいボール・さまざまなボール等)
	第6回	身近な遊具を使った遊び1(縄、フープ、輪等)
	第7回	身近な遊具を使った遊び2(新聞紙、タオル、ハンカチ等)
	第8回	大型遊具を使った遊び1(跳び箱、マット、平均台等)
	第9回	大型遊具を使った遊び2(複数の遊具の組み合わせによる運動、ゲームボックス、巧技台等)
	第10回	サーキット遊び(遊具を組み合わせたサーキット遊び)
	第11回	じゃんけん遊び(遊具を使用しないじゃんけん遊び・遊具を使用したじゃんけん遊び)
	第12回	鬼ごっこ(氷鬼、助鬼、色鬼、手つなぎ鬼、かげふみ鬼、ドロケイ等)
	第13回	身体表現によるわらべ歌遊び(かごめかごめ、はないちもんめ、とうりゃんせ、あぶくたった等)
	第14回	身体表現による伝承遊び1(ケンケンパー、馬跳び、缶けり等)
	第15回	身体表現による伝承遊び2(独楽まわし、お手玉、けん玉、おはじき等)

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	こども家庭支援論	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	渡邉　みゆき	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	子どもへの援助や保護者支援などの現場経験から、保育者に求められるこども家庭支援の法制度などの知識について教授する。				
授業のねらい （到達目標）	1.子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 2.保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題を理解する。 3.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。				
テキスト	「こども家庭支援論」 姫路大学				

授業計画	
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性
第2回	子ども家庭支援の目的と機能
第3回	現代の家庭と子育てをめぐる問題
第4回	要保護家庭の問題
第5回	子育て家庭の福祉を図るための法・制度
第6回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第7回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援
第8回	保育所における子ども家庭支援
第9回	保育者に求められる基本的態度
第10回	家庭の状況に応じた支援
第11回	子育て支援に関する課題と展望
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育者論	授業形態	講義	単位数	1 単位
担当教員	原田　明子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。				
授業のねらい （到達目標）	・保育者の仕事の専門性、保育者に必要な資質・責任について理解する。 ・保育者の倫理、保護者や地域の子育て支援、研修のあり方について学ぶ。				
授業概要	1）保育者の役割をしり、専門的に子どもと関わるとはどのようなことか考察する。 2）保育者の資質と責任について理解し、保育の質の向上を図る必要性を知る。				
テキスト	姫路大学「保育者論」・保育所保育指針・幼稚園教育要領				

授業計画		
	第1回	保育の基礎（保育者に必要な専門的技能とはどのようなことかまとめ、保育者の責任と倫理を理解する）子どもに寄り添う魅力的な保育者とは
	第2回	保育者の役割を考える（1）保育士・幼稚園教諭・保育教諭の仕事
	第3回	専門家として子どもと関わる（1）保育者に求められる資質とは
	第4回	専門家として子どもと関わる（2）専門的に子どもを育てるとは
	第5回	専門家として子どもと関わる（3）保護者支援のありかた
	第6回	専門家として子どもと関わる（4）保育者の専門性まとめ
	第7回	保育者の資質向上に向けての取り組みについて
	第8回	科目終了テスト
	第9回	現在の保育にまつわる問題（1）少子化、待機児童と保育者の役割
	第10回	現在の保育にまつわる問題（1）児童虐待、配慮を必要とする子ども、貧困と保育者の役割
	第11回	保育のプロセスと質の向上　保育の計画・記録と評価
	第12回	行事の意義と役割
	第13回	保護者や家庭との連携
	第14回	関係機関や地域との連携
	第15回	保育者の倫理

単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	こどもの食と栄養	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	萱場　佳代	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	企業での調乳・離乳食指導、特定保健指導、母親教室、料理教室講師 新潟市　母子保健事業、特定保健指導、学校等での出張授業講師　他				
授業のねらい （到達目標）	子どもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性と、それぞれの時期に応じた食事の知識を習得し、食育につなげていけるものとする。				
授業概要	基本的な栄養・食生活の知識を学ぶ。 離乳食から幼児期への子どもの発育発達と、それぞれの時期に応じた栄養補給、食事の知識を学ぶ。 食育の重要性を学び、子どもたちへの伝えかたを考える。 実際に調整粉乳、離乳食、幼児食の調理を行い、形態や味を確認する。 乳幼児期における食物アレルギーについて学ぶ。				
テキスト	「新版　子どもの食生活－栄養・職員・保育－」				

授業計画		
	第1回	栄養に関する基礎知識(五大栄養素の体内での働き)
	第2回	ビタミン・ミネラルの種類・働き・食品
	第3回	母乳栄養(初乳・長所・短所・母乳不足)
	第4回	人工栄養(調整粉乳・フォローアップミルク・特殊ミルク)
	第5回	離乳の定義、離乳食の進め方と注意点
	第6回	幼児期の栄養・食生活
	第7回	間食の必要性と与え方
	第8回	幼児期の栄養・食生活上の問題と対応
	第9回	乳幼児期の食物アレルギー
	第10回	食育の必要性(ねらいと内容)
	第11回	食育の実践
	第12回	実習(調乳・離乳食の調理)
	第13回	実習(幼児食の調理)
	第14回	実習(間食の調理)
	第15回	まとめ　期末試験

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	保育実習論Ⅰ(実習指導Ⅱ)	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	熊倉　美和	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。				
授業のねらい (到達目標)	・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、施設について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して自分なりに立てる。 ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次に繋げる。 ・見通しをもち場面に対応して動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。				
授業概要	・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省　課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。				
テキスト					

授業計画		
	第1回	施設実習の意義や目的を理解し、めあての作成につなげる。オリエンテーションについて確認する。
	第2回	実習ファイル作成・ファイル内容について確認する・実習施設について確認する
	第3回	施設実習と保育実習の共通点と類似点を理解する。・ねらいや視点を捉えて日誌の書き方を確認する
	第4回	部分実習指導案の捉え方・作成　施設訪問に向けて準備をする
	第5回	部分実習指導案の捉え方・作成　施設訪問に向けて準備をする・単位確認試験の実施
	第6回	
	第7回	施設見学を踏まえて施設実習に向けて最終準備を行う。実習マナーと接遇
	第8回	実習の振り返りをする。保育所実習の意義と心構えについて・実習めあてについて
	第9回	めあての作成・実習ファイル作成・単位確認試験の実施
	第10回	保育所実習の準備をする①部分実習について確認する。記録の書き方確認、指導案の書き方
	第11回	保育所実習の準備をする②部分実習について確認する。記録の書き方確認、指導案の書き方
	第12回	保育所実習の準備をする②部分実習について確認する。記録の書き方確認、指導案の書き方
	第13回	保育所実習の準備をする・日誌の書き方　(夏休み補講もあり)
	第14回	保育所実習の準備をする・日誌の書き方　(夏休み補講もあり)
	第15回	保育所実習の準備をする⑥実習マナーと接遇　(夏休み補講もあり)

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	保育実習論Ⅱ・保育実習論Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2単位
担当教員	熊倉　美和	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。				
授業のねらい （到達目標）	・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる（伝える）力を身につける。				
授業概要	・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省　課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。				
テキスト					

授業計画		
	第1回	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りを行い実習事後レポートの作成
	第2回	実習の意義や目的の再確認しめあて作成・オリテ」について・ファイル作成
	第3回	指導案のねらいについて確認する。責任実習について・責任実習案の作成
	第4回	責任実習案の作成
	第5回	責任実習案の作成
	第6回	選択実習Ⅱ Ⅲの準備をする
	第7回	選択実習Ⅱ Ⅲの準備をする。しおりを確認しする
	第8回	様々な保育形体の見学（園見学）
	第9回	様々な保育形体の見学（園見学）
	第10回	選択実習の振り返りをする
	第11回	教育実習（幼稚園実習）に向けて　保育ネタの作成・実践的な模擬保育の実施
	第12回	教育実習（幼稚園実習）に向けて　保育ネタの作成・実践的な模擬保育の実施
	第13回	教育実習（幼稚園実習）に向けて　保育ネタの作成・実践的な模擬保育の実施
	第14回	教育実習（幼稚園実習）に向けて・教育実習事前レポートの指導
	第15回	教育実習（幼稚園実習）に向けて・教育実習事前レポートの指導

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）(施設)	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい （到達目標）	1）保育所の役割と保育士の仕事を知る。 2）保育所実習の1日の流れを知る。 3）保育所実習における観察の視点と実習記録の書き方を学ぶ。 4）子どもの発達過程と遊びを知る。 5）保育技術を習得する。 6）指導案の立て方を学ぶ。				
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）は、保育所(『認定こども園』)において、乳幼児の保育活動や保育士の活動等を観察や参加等の活動を通して、体験的に学習し、保育実践力の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、保育所の役割と機能、子どもの観察の視点、記録の方法及び子どもへの援助やかかわり方、保育計画や指導案作成の留意点を学ぶ。また、記録に基づく省察等を通して環境構成のあり方や、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。				
単位認定 ・ 評価方法	実習園による評価（出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく)、 及び実習日誌を総合して評価をする。 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育実習Ⅱ Ⅲ	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい （到達目標）	1）子どもの発達と遊びについて学ぶ。 2）環境構成と保育者の援助について学ぶ。 3）教材研究を行う。 4）指導案を立てる。 5）責任実習を行う。 6）実習の振り返り、自己評価、省察を行う。				
授業概要	保育実習Ⅱ Ⅲは、保育士資格取得に伴う、選択実習である。この実習では、保育実習Ⅰでの学びを基に、保育所の役割や機能、保育所保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。また、子ども個々の発達を踏まえた保育実践に求められる知識・技術について深く学び、体得することを目指す。さらに、今日の子どもを取り巻く社会状況の中で、保育所が専門機関として果たすべき任務について、その現状から考察する。				
単位認定 ・ 評価方法	実習園による評価（出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく）、 及び実習日誌を総合して評価をする。 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	長谷川　直子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。				
授業のねらい （到達目標）	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。				
授業概要	Excel2019を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。 MOS Excel2019 検定合格を目指す。				
テキスト	Excel2019セミナーテキスト基礎・Excel2019対策テキスト&問題集				

授業計画		
	第1回	テーブルとテーブルのデータの管理1
	第2回	テーブルとテーブルのデータの管理2
	第3回	テーブルとテーブルのデータの管理3
	第4回	グラフの管理1
	第5回	グラフの管理2
	第6回	模擬1(演習)
	第7回	模擬1(テスト)
	第8回	模擬2(演習)
	第9回	模擬2(テスト)
	第10回	模擬3(演習)
	第11回	模擬3(テスト)
	第12回	模擬4(演習)
	第13回	模擬4(テスト)
	第14回	模擬5(演習)
	第15回	模擬5(テスト)

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	長谷川　直子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。				
授業のねらい （到達目標）	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。				
授業概要	Excel2019を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。 MOS Excel2019 検定合格を目指す。				
テキスト	Excel2019セミナーテキスト基礎・Excel2019対策テキスト&問題集				

授業計画		
	第1回	本演習のガイダンス、ネットワーク接続、プリンタ設定 Excelの基本操作
	第2回	表の作成
	第3回	四則演算と関数1
	第4回	四則演算と関数2
	第5回	表の編集1
	第6回	表の編集2
	第7回	ワークシートやブックの管理1
	第8回	ワークシートやブックの管理2
	第9回	ワークシートやブックの管理3
	第10回	セルやセル範囲のデータ管理1
	第11回	セルやセル範囲のデータ管理2
	第12回	セルやセル範囲のデータ管理3
	第13回	数式や関数を使用した演算の実行1
	第14回	数式や関数を使用した演算の実行2
	第15回	数式や関数を使用した演算の実行3

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定こども園での24年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う。				
授業のねらい （到達目標）	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、学び合いながら習得していく 実際に子どもたちとする時の配慮点などを考えながら、制作技術やあそびの習得を目指す				
授業概要	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、実際にやりながら学び合う 様々な科学あそび・自然関連を体験やスライドで見て考える 年齢別の対象を配慮しながら、丁寧にグッズを作ったり演じたりして見せ合う 実習に備え、あそびのレパートリーを増やし手あそび等も充実させていく				
テキスト	「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント				

授業計画	
第1回	校外学習（東公園） 春を感じる・シャボン玉あそびをする
第2回	前年度に作成途中だった「くつしたパペット」を完成させる
第3回	制作の教材研究　様々な素材や制作の裏技について理解を深めるとともに、子どもたちと制作をする時の留意点などを確認する　例：同じ形を沢山作る時の工夫など
第4回	手袋シアター制作
第5回	〃
第6回	〃
第7回	仕上げと発表
第8回	前年度に完成させたパネルシアターの発表と改善点を話し合う
第9回	乳児・幼児年齢別グッズ制作　作りたいものを考えて作る （カードシアター、スケッチブック、ペープサートなど題材自由）
第10回	〃
第11回	〃
第12回	完成したものを実演し合う
第13回	テキスト「すきま時間あそび107」より素話他
第14回	〃
第15回	施設実習について

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2 単位
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定こども園での24年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う				
授業のねらい （到達目標）	様々な保育教材への理解を深める 子どもたちと楽しむために必要な技術を学び合う				
授業概要	あそび歌・科学あそび・伝承遊びグッズ制作など、色々な子どもとの遊びについて学ぶ 実際に子ども達と遊ぶ為の方法や配慮について年齢別に考えたり実践して見せ合ったりする				
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント				

授業計画		
	第1回	小麦粉粘土・スライム・科学あそび系を順次学ぶ 実際にやってみる中で配慮点など見つけていく
	第2回	〃
	第3回	保育グッズを作ったり使う際の練習をし、見せ合う
	第4回	〃
	第5回	〃
	第6回	体操やダンスの振付をイラストで見て覚え、グループで練習をしマスターする
	第7回	子どもたちへの教え方も考え、他グループに実際に教えて一緒にやってみる
	第8回	作りたいパペットを決め　パペット人形制作開始
	第9回	制作
	第10回	〃
	第11回	完成したパペットでミニ人形劇
	第12回	クリスマス関連のあそびとグッズ制作を楽しむ
	第13回	伝承遊びを学ぶ
	第14回	毛糸系など、子どもも出来る冬の制作を考える
	第15回	〃

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	音楽表現Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。				
授業のねらい (到達目標)	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。				
授業概要	保育の表現技術(ピアノ)で習得した基礎技能をふまえ、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い等の技術を身に付けるとともに、こどもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。				
テキスト	「バイエルピアノ教則本」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季　幼児の歌110曲集」				

授業計画		
	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第8回	中間試験
	第9回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第10回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第11回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第12回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第13回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第14回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第15回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。

単位認定 ・ 評価方法	
	期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する

総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	音楽表現Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。				
授業のねらい (到達目標)	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。				
授業概要	保育の表現技術(ピアノ)で習得した基礎技能をふまえ、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い等の技術を身に付けるとともに、こどもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。				
テキスト	「バイエル教則本」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季　幼児の歌110曲集」				

授業計画		
	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第8回	中間試験
	第9回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第10回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第11回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第12回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第13回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第14回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。
	第15回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。

単位認定 ・ 評価方法					
期末試験の実施　　授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%	25%	10%	15%